

学位論文の要旨

所 属	三重大学大学院医学系研究科 生命医科学専攻 病態修復医学講座	氏 名	種 村 彰 洋
主論文の題名			
Donor Age Affects Liver Regeneration during Early Period in the Graft Liver and Late Period in the Remnant Liver after Living Donor Liver Transplantation			
主論文の要旨			
【背景・目的】 全肝を用いる脳死肝移植に於いては、ドナー年齢が術後成績に悪影響を及ぼすか否かについて、いまだ一定の見解はない。一方、生体肝移植では、ドナー年齢がグラフト肝およびドナー残存肝の肝再生とともに悪影響を及ぼす可能性が危惧されている。そこで、高齢ドナー肝を使用した場合のドナー、レシピエントの術後成績に及ぼす影響を明らかにする目的で、特にドナー残存肝およびグラフト肝の肝再生や、肝星細胞で産生され von Willebrand factor (vWF)を分解し thrombotic microangiopathy (TMA)の発症に關与する ADAMTS13 に着目して、本研究を行った。			
【対象と方法】 2002年3月から2011年3月までに行った成人間生体肝移植101例[右葉(R):68例、左葉(L):33例]を対象とし、これらをドナー年齢[50歳未満(Y), 50歳以上(O)]により、Group Y/R vs. O/R, Group Y/L vs. O/Lに分けた。ドナー、レシピエントの術後経過、CT volumetryを用いた肝再生、レシピエントのTMAの指標として血清ADAMTS13, vWFの推移についてそれぞれ比較検討した。			
【結果】 ドナーに関しては、6カ月目の肝再生が Group O/R では Group Y/R に比べ不良であった。多変量解析ではドナー年齢50歳以上が6カ月目の肝再生に影響する有意な因子であった。術後経過は Group O/R と Y/R、Group O/L と Y/L 間で差はなかった。 レシピエントに関しては、術後1カ月目までの肝再生が Group O/R, O/L では Group Y/R, Y/L に比べ不良であった。多変量解析では右葉、左葉肝移植どちらにおいても、ドナー年齢50歳以上が1カ月目のグラフト肝再生に影響する有意な因子であった。Group O/R では Group Y/R に比べ ADAMTS13 活性が術後1日、28日目に低値で、vWF/ADAMTS13 比は術後14日目に高値であった。生存率は Group O/R と Y/R、Group O/L と Y/L 間で差はなかった。			
【結論】 高齢ドナーを選択する場合、レシピエントでは術後TMAの発症に注意が必要である。また高齢ドナー肝は肝再生能が不良である可能性があり、ドナー、レシピエントともに十分な肝容積の確保に心がけるべきである。			

(注) 2, 000字以内にまとめて記入すること。